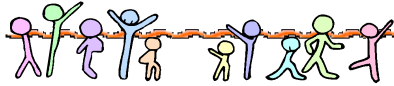


# ぼうさい



発行 平成24年12月17日 第9号  
NPO セーフティネット ぼうさい  
〒948-0003  
十日町市本町 6-3  
連絡先(代表 尾身誠司)  
電話 025-752-7353  
FAX 025-750-3670

E-mail [tbk119@jeans.ocn.ne.jp](mailto:tbk119@jeans.ocn.ne.jp)

## 先人の教え

### 尾身 誠司

未曾有の「東日本大震災」から1年8カ月が経過、報道の回数もめっきり減少し、かねてから被災地を自分の目で見ておきたいと思っていました。

11月17日・18日宮城県名取市・閑上地区・東松島市・奥松島市に行ってきました。NPOぼうさい会員6名でボランティアツアーに参加し貴重な体験をしました。名取市閑上地区の惨状は1000名の死者・不明。何もなくなった様を目にし声も出ませんでした。

一方奥松島宮戸地区は地震と同時に避難し、私たちが訪れた月浜地区では犠牲者はありませんでした。この結果は「防災(津波)意識のほかありません。

新潟県も津波災害にもっと積極的に取り組まなくてはなりません。

せん。地震もそれによって起こる「津波」も地球規模では自然の営みで太古から繰り返されてきました。そのたび犠牲は払われてきたでしょう。

しかし近代文明は生活を便利にする一方、リスクを増大させました。電気がなければ何もできない世の中、携帯電話、パソコン、新幹線など交通機関、ありとあらゆるところに電気なしでは産業も生活もできなくなりました。

東京電力福島第一原子力発電所の事故は「地震・津波」より厄介な人類が造り出した最大のリスクになりました。

事故原因も分からない中再開を進めている現状は何とも恐ろしいことです。

東海・東南海・南海地震が心配される中、同じ原発事故が起こったら、日本いや世界が破滅す

ることになるかもしれません。

国は国民を守る義務があります。私たちはささやかな自己防衛しかできません。今回の体験が「地域の防災」に繋がればと思っています。

ボランティア活動は「心と心をつなぐ愛届け隊」として今回で12回目となる活動で、県内、富山県から42名の参加でした。荒れた公園・こども広場に花を植えました。

大勢の力はすごいですね。被災者と直接会う機会はありませんでしたが、民宿のおかみさんから、またボランティアガイドさんからの話で十分です。

私たちは「備え」の大切さを改めて確信いたしました。今後さらに「起る前の防災活動」に尽力して行きたいと思います。

## 災害ボランティアの参加報告

根津 良夫

去る11月17日18日に宮城県東松島市への災害ボランティアツアーに、NPOセフティーネットぼっさいのメンバー6名で参加してきました。

1泊2日の限られた日程でしたが大変貴重な体験でした。

特に名取市閑上地区の視察で日和山公園からの全景を見て絶句しました。見渡す限り津波により建物や農地が全て無くなっていたのを見て、改めて津波の恐ろしさを痛感し、もう二度とこのようなことがないようにと祈るばかりでした。

特に印象に残ったことは建物の基礎から無くなっていったことに驚きと、自然の猛威にただただ啞然とするばかりでした。

また、添乗員の方からの話では、先日来たときに、被災された自宅近くを散歩途中、1年8ヶ月も経過しているのに未だに思い出の物が無いかと捜し物をしていたと聞いて涙が出る思いでした。それから、田畑が未だ塩害により作付けが出来ないのを見て、世の中こんなにも科学が発達しているにもかかわらず中和剤等、何か良い方法がないものかと素人ながら考えてしまいました。

さて、今回のボランティア作業は公園の花苗の植え込みが主な仕事であり、我々の作業地域では、少しずつではあるが着実に復旧がされつつある。が、まだまだ復旧復興まで何年もかかるのではないかと実感しました。というのは、移動バスからの車窓風景を見ると、方々にいまだに瓦礫や雑草だらけの景色。

国からの援助や支援が大いに必要である。我々ももう少し関心を寄せて出来ることは何かと自問し、何時までも忘れないようにしなければならぬと帰路の途中で思いました。

自分たちが住むこの日本は自然豊かな国であるがゆえに、裏を返せばそれだけ自然災害の危険をはらんでいると再認識しなくてはならないと思います。

また、蛇足ではありますが、我々が滞在した日から丁度1週間目の24日に、余震と思われる震度4の地震が午前5時21分と午前10時30分に宮城県沖でありました。

被災地では、現地の皆さんが大変明るく、前向きに生活されて居ることに感心と感動を覚えられました。

我が地域でも2度3度の地震に見舞われたが、今回の東日本



閑上中学校



閑上地区名取川方向

大震災は地震・津波火災・塩害と放射能汚染という大複合災害であり、我が地方では豪雪地という違う危険があるので、もう一度深く考えなければなりません」と実感しました。「ガンバッテル東北・しっかりとしよう日本」



## 越後 愛 届け 隊

### 東日本大震災

ボランティアアツア参加

浦井 四郎

宮城県名取市閑上地区を視察し悪夢のような地震と津波の傷跡を現実に直視し、ただ茫然と言葉も出さず合掌。ここで何のボランティアが出来るのだろうか、昨年3月12日長野県北部地震で被災し、呆然と5ヶ月余りの避難生活を経験した。しかし東日本大震災では恐ろしい大津波に襲われ、家、町、そして多勢の人命まで奪われ被害地は塩害を含む枯れ野原と化していた。

越後愛届け隊、東松山市宮戸で道路沿いの公園に花の球根を植栽し小雨の中40名での共同作業、心に沁みる物を感じながら楽しい一時でした。

2日目は牡鹿半島小湊浜地区。

瓦礫の山々、災害のあった漁港、

荒廃された憩いの場公園を再生

に向け、雑草を刈り、ガレキを

拾い、風の中開墾し、作業がしに

くい斜面でも、越後愛届け隊40

名の隊員。パワー全開。美しい

花々、球根がいっぱい植栽出来

ました。よかったね。春が楽しみ

でしょう。

春3月には東松山市宮戸の公

園に桜を100本、植樹が予定

らしく、この様な事で被災地の

皆様に少しでもお役にたてるな

らば再度参加してみたいです。



建物の見えない閑上地区

## 念願の被災地へ

遠藤 昭一

東北の被災地には是非足を運びたいと念願していたが、ついに実現しました。日程が折り合わず何回か断念していただけに、とても有難い企画を立てていただいた共立観光さんに感謝です。

今までも多くの地震の被災地を見てきたが、その状態を想像していたものの、実際に目で見るとそれ以上に、その被害の大きさに驚きます。1年9ヶ月経った今も大きな傷跡がいたる所に見られます。

今、津波の被害想定が出来る所になんて家を建て市街地が出来ていたのだからと言うのは誰にでも言えることだろうが、それをしっかりと伝えて対策を立てられなかったのも、年月のせいだけかたづけられない気がする。学校などの公共施設も



予測外なのだろうか、人間の成せる性の悲しさを感じる。この記録を後世にしっかりと伝え、対策を講じねば、犠牲になった多くの人に対して、申し訳ないと思う。

しかしまた、今回参加して、このバイタリティーあるボランティアの若きリーダー達に感心させられ、この世の中の素晴らしさにもまた、感動させられました。

現地のNPO法人スマイルシード理事長の黄本富士子さんそしてまた共立観光の【越後愛届け隊】隊長の倉田智浩さん、素晴らしいの一言。もはや我々高齢者予備軍の出る幕ではなさそうです。

現地で巡りあった多くの人のご意見も聞けて、生死を分けた人生模様などもお聞きできました。多くのドラマがそこには

存在し、またちよつとした判断が生死を決めてしまう、そんなことも大きな情報です。しっかりと伝えてゆくのが我々の仕事かと、つくづく考えさせられました。

一日も早く復興が進むことを祈ります。

関上地区航空写真・震災前



写っている住宅のほとんどが津波で流され、日和山神社(右)跡地には慰霊の花が手向けられていた



日和山神社

### 一宿一飯の恩義 (東日本大震災ボランティアツアー)

藤木 忠雄

共立観光株式会社企画の越後愛届け隊として、セーフティネットぼうさい6名が11月17日(土)、18日(日)にかけて、宮城県東松島市宮戸と牡鹿半島小湊浜地区に、花の植栽ボランティアに行ってきました。一宿一飯の恩義として、今回、宿泊した新浜荘のある月浜海岸のことを紹介します。

1日目の植栽が終わりバスに乗り込み宿へと向かいました。阿部正子さんを除くセーフティネットぼうさい5名は月浜海岸にある新浜荘に宿泊することになり、途中で他のボランティアと別れて月浜に到着しました。バスのライトに照らされた「月浜民宿街WELCOME+SUKIHAMA」の青いゲートが飛び

込んできました。一瞬、賑やかな所なのかと思いましたが、新浜荘まで歩く間に、たった1軒の民宿しかありませんでした。宿の外観や1階は新しく綺麗で、これが津波の被害を受けた建物なのか、不思議に思いました。しかし2階に上がると前からの造りになっており、何か変な感じがしました。

宿泊客は我々とマイカーでこのボランティアに参加した親子2名と6名の男性観光客でした。夕食は海の幸でんご盛りの豪華版で、のどぐろの煮つけ、かれのフライ、数種類の刺身、カニの味噌汁などなど、とても食べきれませんでした。植栽の疲れもあって皆さん早々に床に入りました。

次の朝、津波の傷跡を見るために早朝ランニングに出かけました。月浜全体を見るために

50mの小高い丘に上がりました。登り切った所に「津波 一時避難場所」の大きな看板が立っていました。年寄りがここまで上がってくるにはかなりキツイかなと思いましたが。丘の上からは津波に流された民宿街の更地を望むことが出来ました。丘の反対側を下ってしばらく行くと道路が海に沈んでいて、それより先は行けず、気を取り直して月浜に戻って来ると、境界のコンクリートのみ残った民宿街に啞然としました。

月浜を通り抜け、通行止めとなつている陥没した道路を走って行くと、なんと昨日の夕方に立ち寄った大浜海岸に出ました。こんなに近いのにバスは遠回り余儀なくされたのか。

宿に戻り、朝食を食べながら女将さんと話すことができ、1階は津波により壊れたが

幸いに柱が残ったため、改築したとの事でした。これで1階と2階のアンバランスが納得できました。

また住民の方で逃げ遅れて津波に襲われ、2階に逃げた所に神社の大木が倒れてきて、それにもたがり助かった話を聞くことも出来ました。まさに神木とはこのことだと思えました。

一夜の宿となった新浜荘を後に2日目の植栽に向かう中で、再びバイクでこの地を訪れたいと思えました。

最後に、犠牲にあわれた方へのご冥福と、被害にあわれた方へお見舞いを申し上げます。

震災後の月浜



震災前の月浜



## 海風

阿部 正子

11月17・18日に、NPOのメンバー6名で東北地方のボランティアツアーに参加しました。宮城県東松島市と、牡鹿半島の海岸近くで植栽を行いました。強い風が吹く中での作業。津波で海水をかぶった土は固く、なかなかほぐれませんでした。シャベルを突き立てて、なんとか柔らかくし、鮮やかなパンジーを植えました。花壇の脇は道路です。車窓から多くの人がこの花々を見てくれることでしょう。

植栽活動の前に名取市閑上地区を視察しました。90%以上の家屋が壊れ、今はほとんど人は住んでいないとのこと。

漁師が海を見るためにあるという高台へ行き、参加者全員、静かに手を合わせました。

目を閉じると当時テレビで流れていた津波の映像が映る。

同じ国で、同じ日本人が困っている。山になっている瓦礫を見て何故受け入れを理解してくれないのだろうか、率直に思いました。

車内で、「ここ、前来た時よりきれいになってるね。」と、くり返しボランティアに来ている方の話を聞くことで、一歩ずつ復興していることを実感できました。宿泊先の大高森観光ホテルでは、海の幸いっぱいのご馳走でもてなして頂きました。

震災後、初めて宮城県を訪れ、海が青くきれいなことに驚きました。津波の映像で見た海は、黒い色をしていたので。

この国で、どんな災害が起こったとしても、過去と同じ被害を出してはならないと思います。



バスを降り、これから植栽活動に向かいます。くり返しボランティアに来ている方も多くおり、勝手を知っているので頼りになりました。(右)



NPOの緑ジャンパー、帽子を装備して作業中。総勢40名で植えた花々が、元気に育ってくれることを願います。(左)  
(東松島市宮戸・奥松島にて)



## 自主防支援事業に参加して

滝 沢 繁

4月以降、市内自主防訓練に市防災安全課の要請を受けて、数多くの自主防に出かけて来た。各地の自主防会員と出会って、感ずるところがいくつかある。

そのひとつが防災意識の違いである。各地の自主防の多くが（失礼ですが）やったことにないと自主防としての面子がたたない、とにかく年一回でもやったことにしよう、位の意識の自主防が多いのではと思う。

たとえば、現地に行くと、この後、予定があるので10分やめてほしいとか、当日の参加予定者が100人と聞いているのに、実際の参加者は30人に満たないとか、その地区の防災意識の薄さ、低さからくる現象ではないだろうか。

我々の行動のなかで、いかにし

て防災意識を高めるかという

我々の意識も必要なのではないだろうか。

もう一つに我々の体制の問題があるのではないだろうか。今、会員として登録している人が31名、そのうち防災士認定を受けている人が11名。この11名も仕事を持つている人が多く、自主防からの要請に常に対応できる人は3名に過ぎない。

自主防災組織からの要請は中越地震の発災日を中心に9、10月に集中している現状からすれば、対応しきれない状況にある。全会員が参加できる状況にない組織事情から、限られた人数で昼夜を問わず対応しなければならぬ厳しい現状がある。

これを打破し、我々会員相互の知識、情報の取得、技能の向上に努力しなければならぬので

はないだろうか？

このままで行くと、いつか、対応できなくなる時が来るのではないか。

また、市防災課の対応がいつまで支援事業として委託するのか、市職員の異動にともない取り組みも変化してくる。

1、2年では変わらないと思うが、支援事業に対応しながら組織としての展望をきちんと描いておく必要があると思う。

なにはともあれ4月からの皆さんの行動、ほんとお疲れ様でした。

### 救急訓練



### 消火訓練



繰り返し発生する災害

根津 征吉

火砕流、溶岩ドーム、プレート、活断層、マグニチュード、帰宅困難者、深層崩壊及び集中豪雨などの自然災害用語は昔から聞き慣れていたかのような気がします。

しかし、これらの用語は私たち一般人にとっては過去約20年以内に発生した火山の噴火や大地震、そして各地で頻発するようになった集中豪雨などを機に、毎日のように新聞、テレビなどで報道されるようになってから見聞きするようになったもので、錯覚しているのです。

それではこれらの災害は最近20年以内に初めて発生したのでしょうか。そうではありません。過去から繰り返し発生してきていますが、発生間隔が人間のレベルをはるかに超えるものであるため、忘れ去られたものが多いのです。

例えば活断層は、過去12万年以後に動いた断層を言います。仮に、10万年前に動いたまま現在に至っている活動度が極めて低い活断層がある地域があったとします。ここに住んでいる人

たちはどう考えるでしょうか。「私たちの地域では過去に地震は発生したことがなく安全なところだよ。」と思いますよね。

しかし、この活断層は長年にわたってエネルギーを蓄え続けています。そしていつか将来この活断層が一気にエネルギーを放出し、10万年ぶりに大地震を引き起こすことがあっても全く不思議ではないのです。

また十日町市や津南町の信濃川両岸には河岸段丘が見られますが、河岸段丘は水の浸食と活断層の動きによる地震により形づくられたもので、当地域の地震の履歴書みたいなものと言えるでしょう。

近年地球温暖化により地表付近の気温が高くなって、大気の状態が不安定になりやすく、従って大雨や豪雨が降りやすい環境になってはいるのだと思

ます。が、ただそれだけではなく長い歴史の中で、稀に豪雨となる条件が揃うこともあるのだと思います。

その条件が揃ってしまい発生したのが、昨年7月の十日町市における豪雨災害だったのかも知れません。

先日北海道で数日間、大雪による停電がありました。当地域も近年大雪が続いており、今まで経験したことのない大豪雪に見舞われるかもしれません。

行政区単位で組織されている自主防災組織は最近、活動が停滞しているものが少なからずあります。その原因は、「被害地震や豪雨などはたまたま発生したものであり、そんなに繰り返して発生するわけがない。」という考えによるもののようなです。

確かに毎年被害地震や豪雨が発生する確率は低いかも知れま

せん。

しかし、前記のとおり、「過去に発生した災害は必ず繰り返し発生するものだ。」という意識を地域住民が共通して持つことが極めて重要です。危機意識を持つ地域は災害に強いと考えます。

#### 編集後記

まさか年内にこれほど雪が降るとは思いませんでした。今回の9号は、市の委託業務や、東北ポランティアツアーがあり、紙面増でお届け致します。

年末の慌ただしい中、寄稿下さった皆様、ありがとうございました。市の委託業務はまだ続いております。健康に留意していただき、今後も活動へのご協力をお願い致します。(正)